

2025年度 事業計画

〈法人目的〉 キリスト教の精神に基づき、あらゆる人々が自分らしく生きることのできる平和な社会の実現をめざす。

I 保育事業（第二種社会福祉事業）

〈保育理念〉 キリスト教の精神に基づいた保育の中で、乳幼児の育成に励み、一人ひとりの子どもが未来社会の良き担い手となるようにはぐくみ育てる。

1. 大宮保育園

(1) 認可定員・利用定員・職員数

- ・認可定員 180名 ・利用定員 140名 ・一時預かり事業定員 休止
- ・職員数 36名／園長1名（常勤）、主任保育士1名（常勤）、保育士23名（常勤19・非常勤4）、調理員5名（常勤3・非常勤2）、看護師1名（常勤）、事務員2名（常勤1、非常勤1）、子育て支援員2名（非常勤）、保育補助1名（非常勤）

(2) 保育目標

どの子ども一人ひとり神さまから託されたかけがえのない子どもたち。

子どものありのままの姿を受け入れ、以下のような姿を目標に、全体的な計画にそって保育する。

- ・どんな小さなことにも感謝することのできる子ども
- ・すべての命を大切にできる子ども
- ・あそびも学びも根気よく集中できる子ども
- ・表現豊かな子ども
- ・仲間を大切に、地域のなかでともに育ちあう子ども

(3) 年間保育目標

キリスト教保育連盟の2025年度年主題「ともに」を年間保育目標とし、大切にしたいことを職員間で共有して保育をすすめる。

(4) 保育内容

子どもたち一人ひとりのありのままの姿を受けとめることを大切に、園として特色のある取り組みを実践する。

- ① 乳児保育・育児世帯制で学びつ一人ひとりを尊重した丁寧な声かけを行い、ゆったりとした雰囲気の中で愛着関係を築き、自尊心をはぐくむ。
- ② 幼児保育・異年齢保育（たてわり）を基盤に、遊びと生活を通して人間関係をはぐくむ。目に見えない心の育ちを大切に活動や行事を行う。発達課題に応じて年齢別クラス（よこわり）の活動を取り入れる。
- ③ 子どもの人権 特別支援保育、保護者支援等への理解を深め、チームで課題にあたろう縦横で連携する。
- ④ 保育室の照明を徐々にLEDに替えていく。（短期計画）
- ⑤ 老朽化して危険な保育室のロッカーや手洗場の修繕を考える（長期計画）
- ⑥ 限られた環境の中で子どもたちが安全で安心して生活でき、保育士もゆとりをもって保育ができるよう、利用定員の調整を行う。（長期計画）

(5) 組織管理

- ① 職員の資質向上を目指した研修や、職員会議を充実させ、知識や情報の共有・アップデートを丁寧に行う。
- ② 保育理念・保育目標等が職員一人ひとりに浸透し、共通理解の下保育を進めていく。
- ③ 限られた時間の中で事務作業が捗るように、パソコンの台数を増やしていく（短期計画）
- ④ 職員の休憩・休暇の取得・ゆとりのある保育を目指して、職員の増員を計画していく。（短期計画）

(6) 安全管理・危機管理

- ① 危機管理体制を充実させ、積極的に苦情解決、防犯・防災訓練に取り組む。
- ② 行政・地域と共同して児童虐待防止、DV予防に取り組む。（日頃の子どもの様子や保護者の様子、視診での身体の変化等の観察）
- ③ サービスの質の向上に向けて、ヒヤリハットや事故報告書などを検討し、再発防止に取り組む。
- ④ 今後の大きな災害に備えて、BCP（事業継続計画）の作成に取り組む。

II シャロン千里

北千里駅周辺の再開発が進んでいく中、団地の立て替えをきっかけに施設入所を検討され入居見学や申込みは絶えない状況です。また高齢の方だけではなく新しくこの地域に転居してこられたファミリー層にもシャロン千里を認知してもらうために、今年度は改めて地域との交流を視野にいれ展開していきたい。そのために職員全員がそれぞれの専門性を活かし高齢者・介護に悩む世代・子育てに悩む世代・子どもたちをサポートしていきたい。

- 《基本方針》
- ・ 「いのちの尊厳」が守られるケアに力を注ぐ
 - ・ サービスの質の向上に努める
 - ・ 社会貢献事業に取り組む
 - ・ 経営の安定性をめざす

1. ケアハウス（軽費老人ホーム）

入居者が心身ともに健康に穏やかな生活が送れるよう、一人ひとりの声に耳を傾け、自立した生活が送れる環境作りを目指す。日々の楽しみや入居者同士の交流の機会となるよう、クラブ活動や行事を実施する。地域にケアハウスの情報を発信し、交流を図れる機会を作りたい。

- ① 定員 50名
- ② 自立支援 ・入居者の自主性を尊重し、自己決定が出来る環境作りに努める。
- ③ 生活の充実 ・入居者一人ひとりが発信する情報を的確にとらえ、多様化するニーズに合わせた支援に繋げ、生活の充実を支援する。
- ④ 職員の質の向上 ・入居者が安心して過ごせるよう、人権擁護に関する職員の意識を高める。また定期的な内部研修や外部研修の活用により、職員の質の向上に努める。

2. 介護保険事業

(1) デイサービスセンター（通所介護・通所型サポートサービス）

季節を感じられるような行事や機能訓練を考慮したゲームを計画し、楽しい気持ちで1日過ごしてもらえるような心地のいい空間を提供していきたい。またゲストを招いての特別プログラムの際は、掲示板などで告知し、地域の方にも参加していただけるよう開かれた場所として認知してもらうことで新規利用者の獲得につなげていきたい。職員一同お一人おひとりに丁寧に対応し、選んでもらえるデイサービスを目指す。

- ◆目標 ・一日平均利用者数 17名（要介護13名、要支援4名／定員 20名）

(2) ヘルパーステーション（訪問介護・総合事業）

管理者の交代に際し、チームコミュニケーションの強化やサービスの質の向上をめざし、職員一同力を合わせて取り組む。またヘルパーのスキルアップ研修、ヘルパーの体力を考慮したスケジュール管理等の研修を充実させ、安心して働ける職場環境を整える。

- ◆体制・目標 ・サービス提供責任者 2名 ・月平均活動時間数 380時間

(3) ケアプランセンター

特定事業所として、地域包括支援センターや地域医療施設との連携を図り、誰もが住み慣れた地域で安心して生活を継続できるように質の高い支援を提供できる体制を整える。

ターミナル期における支援を可能な限り受け入れ、本人・家族の気持ちに寄り添い、人生の最期の時まで自身が望む尊厳のある生活を守る事が出来るように共に考え取り組んでいく。

- ① サービスの質の向上への取り組み ・4名の経験豊富な介護支援専門員が事業所内研修や事例検討会を通し、質の高いケアプランを提案できるように努める。
- ② 主任介護支援専門員としての取り組み ・地域包括支援センターとの連携・地域のネットワーク作り
・介護支援専門員実務者研修における見学実習の受け入れ
・地域における他法人事業所共同での事例検討会の開催

(4) 介護サポート連絡会

- ① 職員研修の成果を各事業現場に活かせるように取り組む。
- ② 介護保険情報を共有し、事業運営に活かす。
- ③ 介護ソフトの見直しなどでより効率的に業務が行えるように検討する。

- ⑤ 各保育室の排煙窓の修繕（法定点検で動作の不具合あり）

（7）地域との関係

- ① 実習生、インターンシップ、ボランティアを積極的に受け入れる。
- ② 地域主催の防災訓練や研修、会議等に参加し、ネットワークを構築する。（地域連帯防災会議、市営住宅住民参加の合同避難訓練、あさひ子育て安心ネットワーク会議、大宮小学校研修、旭区社会福祉施設連絡会議等）
- ③ 地域の子育て世帯の交流の場、子育て相談の場として園庭開放を継続して実施する。

2. こひつじほーむ（小規模保育事業）

（1）認可定員・利用定員・職員

- ・認可定員及び利用定員 12名（0歳～2歳児各4名）
- ・職員数 9名／園長1名（常勤）、主任保育士1名（常勤）、保育士5名（常勤2・非常勤3）、子育て支援員2名（非常勤）

（2）保育目標

子どもをありのままに受け入れ、一人ひとりの心に寄り添い丁寧に関わる中で、以下のような姿を目標に保育する。

- ・まわりの大人の見守りや援助の中で、安心して自分で身の回りのことをしようとする
- ・生活や命のある物に触れ合う中で、全ての物を大切にできる心が育まれる
- ・まわりの大人や友達との信頼関係の中で、自分の思いをそのまま言葉や身体で表現できる
- ・やってみたい思いを受け止めてもらいながら、興味を持つことに意欲的に取り組もうとする

（3）年間保育目標

キリスト教保育連盟の2025年度の主題「ともに」を年間保育目標として掲げ、職員間で思いを共有する。

（4）保育内容

保育を取り巻く社会の変化に留意し、小規模保育事業所の役割を確認しつつ日々の保育に務める。

- ・小さい集団の中で家庭的な保育を行う。
- ・親元から離れて初めて出会う大人に十分に受け入れられ、信頼できる大人との出会いのなかで愛され、のびのびと過ごす。
- ・育児担当制に学びつつ、日々の安定した生活の流れの中で見通しを持ち、安心して過ごせるよう保育環境に配慮する。
- ・スキンシップ、あやし、受容と共感などで満たされた関わりの中で過ごし、心を育てる。
- ・四季折々の自然に触れて遊ぶ中で五感を育む。
- ・保護者、地域の方、職員が繋がりあい、子どもの成長を見守る中で、一人一人の自己肯定感を育む。

（5）その他の取り組み

①保護者支援

- ・園での生活の様子を知って保護者が安心でき、家庭と園とが細やかに情報共有することで保育者がこどもたちへよりよいかわりができるよう、保護者が園生活の一部を共に過ごす「保育参加」を勧める。
- ・親子が共に過ごす時間と場所を提供する「こひつじ会」を通して保護者同士の交流の場をつくり、園と保護者とのコミュニケーションもより深まるよう工夫していく。父親同士の交流にも目を向けていく。
- ・多様なバックグラウンドを尊重し、保護者間でも理解が深まるよう配慮する。

②地域に根ざした保育園であることを大切にし、地域住民との交わりや発信を積極的に取り組む。

③危機管理体制の充実をめざし、苦情処理、防犯、防災訓練に力を入れる。

④行政・地域と協働しつつ児童虐待・DV予防に取り組む。

⑤課題共有と問題解決に資する職員会議、職員一人ひとりが成長を感じられる研修を計画・実施する。

⑥ヒヤリハットや事故報告書などの検討に工夫を行い、再発防止やサービスの質の向上につなげる。

⑦ 第三者評価をふまえ、中長期計画の明文化、マニュアルの整備等を進める。

⑧ 「こども誰でも通園制度」の動向を注視する。

3. 地域包括支援センター（吹田市受託事業）

2025年度、市では『重層的支援体制整備事業』が開始し、包括には多世代からの多様な相談に柔軟・かつ適切に対応していくことが求められる。また在宅介護・医療連携推進事業においても、コーディネーターの役割を務める場面が増えている。職員の相談援助技術のなお一層のスキルアップ、随時の情報収集、連携強化のための取り組みを、今年度の目標としたい。

昨年に引き続き、介護予防やACP、消費者被害などのテーマを中心に包括の自主講座を企画し、地域住民に正しい知識を持ってもらうための情報発信をしていくと共に、地域包括支援センターの周知にも努めたい。

4. こども館（児童館）

こどもの健全育成と子育て支援を目的に取り組む。

- ① 子育て支援プログラム ・おやこひろば、おおきなかぶ
- ② こどもプログラム ・ちゃれんじひろば（大阪YWCAこども部協力プログラム）
- ③ こども図書室 ・図書室運営、おはなしの部屋

5. 介護職員初任者研修事業（旧ホームヘルパー養成講座）

受講期間3ヶ月、週1～2回の通学と自宅学習とする。パソコンやスマホでも当研修が検索できる体制を整えた。修了後は、当施設に勤務する方に受講料の一部を補助する制度で受講生の便宜を図り、受講意欲の増進と職員確保につなげる。

6. 全 体

(1) 職員数 53名（常勤 15名、非常勤 28名、登録ヘルパー 10名）

(2) 食 事 日清医療食品株式会社に委託する。定期的な献立会議などで情報交換を行い、入居者・利用者に喜んでもらえる食事と食生活空間作りを目指す。

(3) 事故対応委員会

事故・ヒヤリハットの事例報告、検討を通じて事故防止、再発防止を目指す。

(4) サービス品質向上委員会

苦情対応報告やアンケート結果などを、利用者及び家族の声に重点をおいて検討し、サービス内容の見直しとサービスの質の向上を図る。

(5) こども館運営委員会

こどもの健全育成及び子育て支援を目的に協議を行い、こども館の運営に反映させる。

(6) 身体拘束適正化・高齢者虐待防止検討委員会

「身体拘束適正化のための指針」や「高齢者虐待防止指針」に基づき、研修や事例検討などを通し利用者本位のサービスによる質の向上を目指す。

(7) 感染症対策委員会

「感染症・食中毒の予防まん延防止に関する指針」に基づき、感染症マニュアルの見直しや感染症に関する新しい情報の共有を行い対応していく。

(8) 衛生委員会

職員が心身ともに安定した状態で労働ができるように課題検討を行い社内環境の調整を行う。

(9) 社会貢献事業

経済的支援のみに留まらず、その人らしい自立にむけた支援が行えるよう大阪府社協の社会貢献支援員や吹田市内の他の施設と連携を密に対応していく。